

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】「たちばなマインド」(A中学校)

自分のよさや個性を生かしながら、前向きに取り組む生徒を顕彰するカードを発行している。「たちばなマインド証」(右画像)を入学時に生徒全員に渡し、「前向きに何かに取り組めた」ことを生徒が報告している。



・ボランティア活動(「たちばな隊」)の実施

「たちばなマインド」を合言葉に生徒が学校の一員として、活躍し認められる機会を複数用意し、その一環として地域の方に学校だよりを配布するボランティア活動を行っている。

【取組 2】「教育相談期間」(B中学校)

2学期初めに教育相談期間を設け、生徒の悩み等を把握している。長期休業日明けに生徒が安心して学校生活を開始できるよう支援している。相談することで生徒は2学期の見通しをもち、教員からの励ましを受け安心して学校生活を送ることにつながっている。

【取組 3】学校行事の取組(A中学校)

「生徒一人一人に居場所のある学年」に向けて、生徒主体の交流活動を行っている。毎学期末や学校行事では「学年が参加し、全員が楽しめる」学年レクリエーションを学級委員や実行委員が検討、実施し、生徒相互の交流を図っている。

【取組 4】生徒指導を意識した授業(全巡回担当校)

- 授業内に個人で考える学習活動を行った後に、ペアワークやグループワーク等の集団での学習を展開した。生徒が分からない学習内容があっても、授業時間のどこかで教え合っただけで学習内容を理解できる時間を設けている。
- 授業の「めあて」を提示し、生徒が見通しをもって授業に参加し、授業への不安を軽減できるようにしている。
- コミュニケーションに苦手意識のある生徒への配慮として、授業中の話し合い活動への参加の程度などを個別に相談している。

【取組 5】校内研修(C・D中学校)

不登校対応コーディネーターと連携し、校内別室を利用する生徒や不登校生徒への支援の課題について、教員へのアンケート調査を実施した。回答結果に基づき、校内委員会で解決策を検討し、校内研修会で検討した内容を周知した。

各学期末の職員会議で「生活意識調査」の結果及び分析内容を報告した。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（全巡回担当校）

支援会議で不登校対応巡回教員が、研修等で得た情報や他校での好事例などを報告し、不登校生徒の支援の充実に向けた情報交換を行っている。

不登校対応コーディネーターと連携し、生徒への支援方法や「生活意識調査」の工夫改善について検討している。

アウトリーチによる支援

（A中学校）校内別室の利用生徒に対し、担任、SSW と共に家庭訪問した。生徒や家庭と関係を築き、登校しやすい環境作りに取り組んでいる。

（D中学校）面会が難しい家庭に手紙を投函する等の情報提供を行っている。様々な方法で面会ができるようになってきている。

校内別室における支援（C中学校）

学習する場所以外にも、カードゲームをしたり、体を動かしたりするスペースを用意した。卓球等に取り組み、自然に他者と交流できるように支援した。生徒同士や、生徒と教員、校内別室の支援員との交流が深まっている。

個人で過ごせる場所、複数人で過ごせる場所として、1日の取組（学習内容・教室の授業に参加等）を生徒自身が決めて過ごせるようにし、教室復帰や登校につなげる支援を行っている。



デジタル機器を活用した支援（D中学校）

- 個別チャンネル作成
生徒がいつでも悩み等を教員にオンラインで相談できるようにしている。
- 教室の授業をオンライン配信
固定されたクラスから配信している。
- OSC や担任とオンライン面談
外出が困難な生徒への対応を工夫している。

関係機関との連携（D中学校）

- 区教育相談センター、区教育支援センター、SSW との連携
心理士や職員と生徒情報を共有、対応方針を確認している。
- NPO 法人と連携（eスポーツ）
NPO 法人と連携し校内別室を利用する生徒向けイベントを実施した。

成果

- 「生活意識調査」に基づき、生徒の心身の状態を把握し、早期対応ができた。
- 巡回担当校が組織的に早期支援を行った。

課題

- 不登校の未然防止に向けた、一層の取組の充実
- 生徒の状況に応じた組織的な対応の充実